

『新規採用者名簿』 漏えいが発覚!

緊急 国労東日本本部が 本社に 申入れ提出!

国労東日本 申 第 16 号 (2013. 4. 26) 抜粋

「国労東日本本部 申 第11号

『新規採用者の現場配属に関する申し入れ』

に基づく団体交渉の早期開催を求める緊急申し入れ

1. 当該支社による「新規採用者名簿」の漏えいについて、事実経過も含めて詳細に説明すること。
2. 新規採用社員の現場配属時等における取扱いについては、再三指摘してきたところであるが、この間の会社側の支社等への周知及び指導について明らかにすること。
3. 今後の対策とその責任の所在について明確にすること。



(組合員の購読料は
組合費に含まれます)

港区新橋5-15-5
交通ビル
国労東日本本部
発行責任者 高野苗実
編集責任者 伊藤隆夫

No. 738 定価
20円

2013年

5月20日

周りの仲間を信頼し
組織拡大
まず一人から

<http://www.e-nru.com/>



携帯用ホーム
ページはこちらの
QRコードから

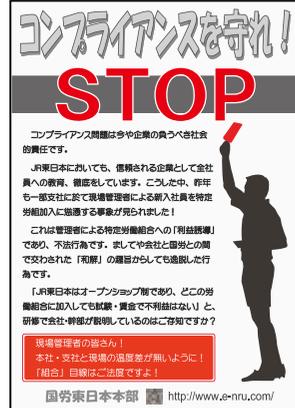
この間、国労東日本本部は新規採用者の配属に対して、①管理者の特定労働組合への加入懲罰は不当労働行為であること、②国労とJR東日本との間での交わされた2006年の中労委「一括和解」の趣旨である「公正・公平な人事・労務管理」を再三にわたって求めてきました。

しかし、新規採用者配属に伴う組合加入を巡っては、毎年のように地方・職場から極めてグレーな事象が報告され、例年新規採用者の配属にあたって本社に「申」を提出するとともに、各職場へも「コンプライアンスを守れ」等のポスターを掲出し注意喚起を行って来ました。

こうした中であって、一部支社が平成25年度「新規採用者名簿」を特定の労働組合に提出するという事象が当該地本から報告されました。

国労東日本本部は、このあってはならない事象に対して4月26日「申16号」(別掲)で本社に緊急申入れをおこない、『事故』の真意について報告を求めています。さらに現在、この事象を含め「一部支社の事象」で終りにすることなく、労使関係の根底に関わる問題であることから実態調査を各機関にお願いしています。

引き続き「公正・公平な人事・労務管理」を求めるためにも、各職場からの情報提供を要請するとともに、働きやすい労働条件の確立に向け奮闘しましょう!



『関東議員団会議』

4月21日・22日

を開催

「いすみ鉄道」を訪問、
活性化に向けた経験聞く

「国労関東議員団会議」が、4月21日～22日に、千葉地本の受け入れにより、千葉県一宮町に於て開催された。

参加者は、千葉・水戸・東京・高崎・長野の国労出身地方議員と機関代表で、地元行事との日程が重なったため6名が欠席したが、計22名が参加した。

会議は、河野事務局長(新宿区議)の司会で進められ、国労東日本本部からは高野委員長、関東議員団から佐藤洋二団長(日野市議)が主催者あいさつ、続いて、地元の小林千葉地本委員長と山口团长(長生村議)から歓迎のあいさつ、当初予定していた地元・一宮町長に代わりメッセージが披露された。

議題に入り、国労東日本本部の佐藤副委員長から、「委託化や新人事賃金制度導入などが進められるJRの諸施策」「労働条件に関する協約の締結に至った経過」「組織拡大に向けての取り組みと成果」を中心に報告し、議員の方々からは「ホームドア」や「駅委託化の状況」などについての質疑が出された。

翌日は、千葉県のローカル鉄道である「いすみ鉄道」に乗って本社を訪問した。社長・総務部長・営業部長から「(名所も施設も)何にもない鉄道を逆に売りにしながら、過疎化の中で存続に向けての創意工夫を、資料を基に説明された。小さい鉄道会社のため、本社といつても会議室は留置した車両内。社長から「公募で、外資系航空会社から社長となった。過疎化で運輸収入が限られるなかで、まずマスコミに取り上げられるよう工夫している。今もホームで10月放送予定のNHKの番組収録中です。細かい工夫は部長から報告しますが、パクってもらって大いに結構。皆さんの活動に活かしてください」との挨拶。参加議員からは、地方交通線に関わった経験からの質問や「旧式車両だが保守はどうしている?技術の伝承は?周辺環境の美化のためボランティアの協力は?運賃収入と事業収入の割合は?」等専門家らしい細かい質問が飛んだ視察となった。





JR 陸前高田駅跡での献花と黙祷

東日本大震災から2年が経過した。しかし、被災地の復興速度は遅い。津波で自宅や職場を流された。学校や病院も失った。通院や通学・通勤に利用していた鉄路もない。この異常時に対応する法律等は平時のものばかりだ。居住地の移転・公共施設の建設にもさまざまな規制がある。動か

4月19～20日、国労東日本本部は各地方・地区本部書記長・業務部長、職協代表者会議を岩手県・花巻市で開催。3月2日より仮復旧しバス高速

BRT

バス高速輸送システムと被災地を視察

4月20日

陸前高田市内などの被災地を訪れると共に、JR陸前高田駅跡に於て参加者全員で献花を行い、故熊谷氏と東日本大震災の犠牲者に哀悼の意を表しました。

東日本大震災から2年が過ぎた今日、「岩手県沿岸の現状と課題」について盛岡地本・佐々木書記長より現地の「声」をご報告頂きました。



BRT 車両



盛駅構内 BRT 専用道路

ぬ政治、使い勝手の悪い予算に怒りを覚えながらも、それでも被災者は生活しなければならぬ。公共交通は被災地の復興にとって欠くことのできないものである。三陸鉄道は国等からの財政支援によって南北リアス線が26年4月に全線開通する。しかし、JR山田線、大船渡・気仙沼線の復旧目途は立っていない。鉄道復旧に向けた検討体制として東北運輸局による復興調整会議（JR東日本、関係自治体参加）が線区毎に開催されてきた。鉄路の復旧が進まない理由に、鉄道沿線地域が大きく被災し、まちづくりと一体となった復旧

計画（駅移転やルートの変更等）が必要であること、嵩上げやルート変更に伴う線路に対する財源に復興交付金などの活用が確定されないことなどがある。

そんな中で、気仙沼線（気仙沼～柳津間）では昨年5月の第5回復興調整会議でBRTによる仮復旧を合意し、8月から暫定運行、12月から本格運行を開始した。

大船渡線（盛～気仙沼間）でも昨年7月の復興調整会議で復旧方針を検討するとともに、10月の公共交通確保会議でBRTによる仮復旧で合意、今年3月から運行を開始している。大船渡線沿線

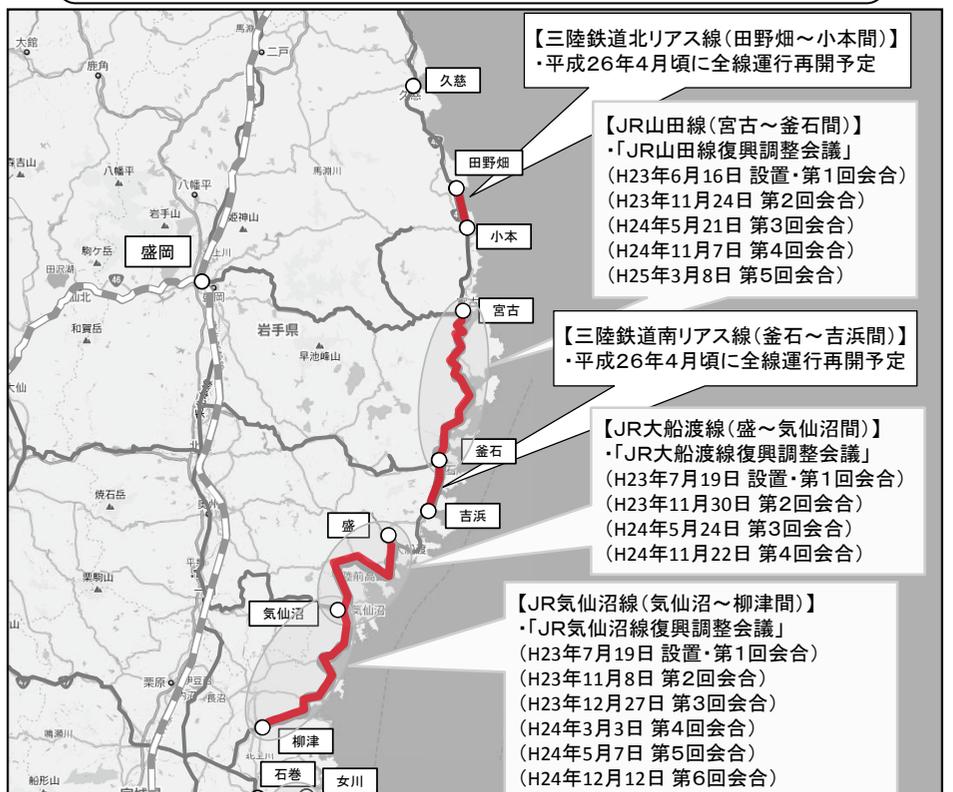
では、クラブ活動をする高校生や親が、交通手段を確保するためにバスを貸切り、通学させてきた。また、陸前高田市役所や県立高田病院が高台に移転（プレハブ）するなど、日常生活を取り戻すための足を確保するうえで、やむを得ない選択でもあった。

山田線（宮古～釜石間）でも昨年6月にBRTによる仮復旧が提案された。沿線4市町の首長は拒否し、あくまでも鉄路による復旧を求めている。三陸住民にとって三陸沿岸が鉄路で結ばれることは悲願だった。分割民営化を前にした84年に三陸鉄道を発足し八戸線、山田線、大船渡線と結ばれたのである。

「この地域が全国と繋がっているという精神的安心感」は鉄路あつてこ

沿岸部の鉄道の復旧に向けた検討体制について

（国土交通省東北運輸局 HPより）



「この地域が全国と繋がっているという精神的安心感」は鉄路あつてこ

そ」と言われ

R Tは仮の交通手段であるとの被災地の想いを受け止め、公共交通を確保する国民の足を守る政策課題としての取り組みが求められる。（盛岡地本・佐々木）

最新のがん治療に合わせて進化したアフラックの新しい「がん保険」です。

（引受保険会社）「生きる」を創る。
Affac
アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）
東京第三法人営業部
〒163-0456 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル
Tel.03-3344-1459 Fax.03-3344-4036

■募集代理店
アベニール 株式会社
TEL 03-3437-6810
FAX 03-3437-6822
〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3F

資料請求いただいたお客様の個人情報利用目的は、アフラックの各種商品やサービスの案内・提供・維持管理となります。
©詳しくは、「パンフレット（契約概要）」や「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。 AF007-2011-0293 6月22日